

KSKR  
NO. 21



パンジー

だより 日本智

発行 1997年2月

編集 クリエイティブハウス  
“パンジー”

## パンジー3大ニュース

そろそろ年度末を迎え、メンバーからは「4月になったら、新しい人来るのかなあ」とか「違う仕事してみたい」という声が聞かれます。冬から春への移り変わりに、みんな何かしら新しい希望みたいなものを抱いているんだなあ、と感じます。パンジーがオープンして5年目の春が、もうそこまで来ています。

さて、今年度もいろんなことがありました。そこで私の独断で「パンジーの3大ニュース」を選んでみたいと思います。

まず一つは、つばさグループ10周年記念イベント。永六輔さんの楽しいお話とロックバンド・シャンテのコンサートは、多くの方々のご協力により大変盛り上がりました。チケット販売をする中で地域の方々とも新たなつながりが持てたイベントでした。

二つめは、中新井先生を迎えての週に1度の「個別的な関わりの手がかり」を探るミーティング。自閉症やコミュニケーションの難しいメンバーとの関わりを中心に、メンバーが安心して過ごせる環境作りや個別の関わり方を学んできました。また、10月には生駒山で1泊2日の「自閉症のメンバーをメインにしたワークショップ」を開きました。

三つめは、メンバー自身による活動。2ヶ月に1度のピアカウンセリングが定着し、パンジーからのリーダー誕生も間近です。11月末の「全国知的障害者交流集会・神戸ではなしあおう会」では、パンジーからも多くのメンバーが参加し、全国の仲間と友だちになりました。パンジーの元気の出る話や分科会の報告を担当したメンバーは確実に自信をつけ、自分のことや仲間のことをもっと話せるようになるだろうと思います。

いろんなことがパンジーでは起こっていますが、そのすべてが、障害を持つ人たちが地域に根ざし、自立して暮らしていける社会を作っていくことにつながって行ければと思います。

来年度からは、ショートステイ事業が始まります。これまで体験宿泊も、ちょっと不安・・・と思っていたメンバーも自立に向けての一步を踏み出してほしいと思います。

(たき)



## リフトカーで、大活躍!



こんにちは、パン部門です。寒い毎日が続きますが、皆さん風邪など召されていないでしょうか? パン部門では毎日元気にパンを作っています。

今回は、作ったパンを皆様にお届けする時に配達で使っているリフトカーを紹介します。去年の6月頃にリフトカー(8人乗り、車いす2台)がパンジーに加わって、多方面の配達が可能になりました。また、電動車いすの乗り入れも可能になり、日頃、電動車いすを使っているメンバーの梅原君や岡本君の電動車いすでの配達や外出も可能になり、リフトカーは大活躍しています。

竹内「リフトカーはどうですか?」

梅原「やっぱり、電動車いすで外に行ったら自由に動けるからむちゃくちゃいいわ!」。これからもリフトカーに乗ってがんばって配達をしますのご注文の方もよろしくお願いします。(竹内)

## 「きれいな布やね。いいお皿やね」



梅の花が白やピンクに咲き始め、春の訪れを感じる今日この頃、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

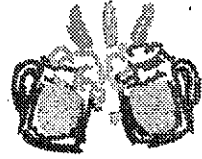
先日、長いお付き合いをしている鴻池東小学校のグラウンドで販売の機会を頂きました。その日は公開授業で他の学校やいろいろな所からたくさんの方が来ていました。この日に向けてさをりを織り続けてきた「さをりチーム」と接客が大好きな「販売チーム」約10名でのにぎやかな販売となりました。ほとんどのお客さんがひとつひとつ手にとって見て下さり「きれいな布やね。いいお皿やね」などと言われた時のメンバーの表情はなんとも嬉しそうでした。そこで感じたのは、やはり自分たちが一生懸命作ったものを自分たちの手で売る経験は「自信」につながっているということでした。

社会との接点が増えることが、嬉しさとしてみんなのなかに育っているのを実感し、これからもパンジーとみなさんとの出会いを創り出していこうと思っています。(にっちゃん)

「わくわく」のページ  
よかったこと、気にしてほしいこと②

「わくわく」では、楽しかったり困ったり、毎回いろんなドラマが生まれます。そんな、楽しかったことや困ったことを紹介します。

Iさん はじめは、ヘルパーに教えてもらって難波のバイキングに行った。どんなんがあるかなと思っていちど見に行ってみた。雰囲気がおもしろかった。他のヘルパーにも教えたって、もう5回くらい行っている。あそこは安いわ！



Aさん 自分の買いたい物があるときに、いろいろとわからんことを教えてほしい。自分の気に入ったものが見つからないときは、もっといろいろとつき合ってもらいたい。

ヘルパーミーティングより

ある日のヘルパーミーティングのこと。Sさんと外出したヘルパーさんから「Sさんがあまりお金を持っていなかったので、カラオケ代を立て替えた」との報告がありました。確かにその日、Sさんはカラオケができるほどのお金を持っておらず、ウィンドウショッピングを楽しむことになっていたのですが、どうしても歌いたい！ という熱意(?)に負けたのか、お金を立て替えることになってしまったようです。他のヘルパーさんからは、

「お金がなければカラオケはできないと、はっきり伝えるべきだったのでは」

「でも、どうしても、といわれたら困るなあ」

「お金がかからない過ごし方を考えたら良かったのでは」

等々の意見がでました。

メンバーのしたいことを支援するのが、ガイドヘルパーの仕事の一つですが、あなたなら、こんな時どうしますか？

4月より新年度になります。3月はヘルパー会員みなさんに、新年度の登録の手続きをお願いする事になります。また、「わくわく」では、ガイドヘルパーを募集しています。興味のある方は0729-63-8818にご連絡下さい。

どいんもんかの  
パンジー

ことは  
こんなことを がんばろう！  
やってみたい！！

もうすぐ さむいふゆも おわり。あったかくなったら なにを  
しようか？ どんなこと がんばってみようか？  
みんなの “やるぞ！” をきいてみました。



しごと



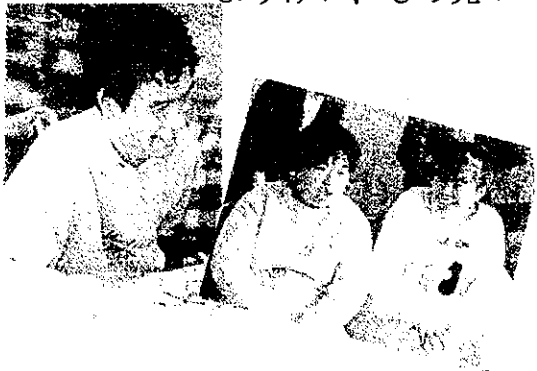
福田：しごと！！

梅原：ワープロをもっとがんばりたい。

ハワイ、沖縄いきたいなー。

生田：もっと商売、がんばらなあかん。

ようけい、もの売って給料あげなあかん。



平石：就職しましょう！！

五十嵐：さをり！がんばる！

長田：—— さをりかな？

(にっこり うなづく。)



山本 —— なにがんばるか？

明和小学校・中学校・市役所。はいたつ がんばります！

(はいたつ前、くるまの中での決意でした。)

野花：仕事をがんばろー！

内海：パンだけ！！



しゅみと じりつにむけて

野畑：マネージャーにコーヒー  
かってきてあげること。

肌勢：バッティングセンターに行って  
もっとバッティングがうまくなりたい。



平川：カラオケを もっとうたいたい！

富田：カラオケって、「白い雲のように」  
竹内君みたいに うたいたい！

西田：かいものとか カラオケって、  
ゲームして・・・。

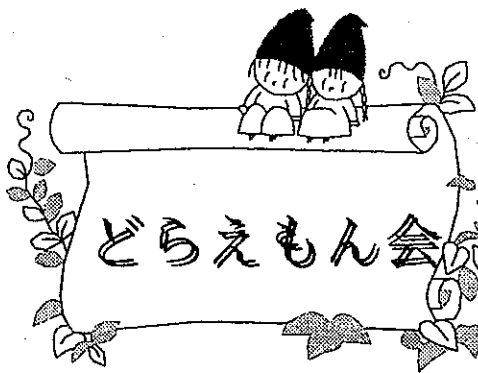
岡本：じりつ がんばりたい。



久保 — ピアカンかなー？ うん。うん。

— ジャーがんばるぞ！ おー！

清水：たてかんやな。（どらえもん会の立て看板制作中）



みんなが、したいことができるよう  
に、パンジーのどらえもん会は、役  
員さんが中心になって話しあいをし  
ています。

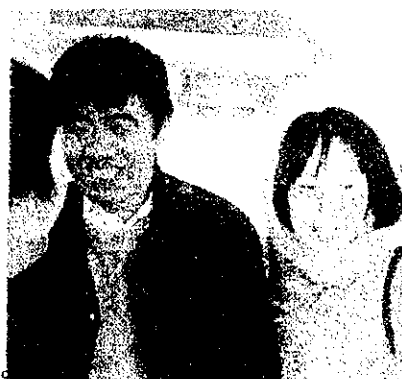
3月には、役員選挙をします。役員さん、一年間おつかれさまでした。

グループホームより

## 自分で食器を洗える自信がついた

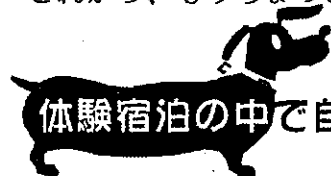
森 隆司

グループホームをやりだして楽しい。テレビを見たり、肌やんと遊んでる時楽しい。キャッチボールしたり、二人でビデオを見たり、話したりしているとき楽しい。コーヒー飲んでいるとき楽しい。



家を離れてグループホームにいてるのが楽しい。自分でヒゲをそれる。自分で食器を洗える自信がついた。朝一番にバスに乗って木村さんと話ができるのが楽しい。バスの乗り降りの手伝いをするのが楽しい。早く料理を覚えたい。いろいろ自分で料理を作ってみたい。洗濯をはやく覚えたい。洗濯物たたむの覚えたい。洗濯物むちゃくちゃになっているから。家のタンスも。

これから、もうちょっと遊びたい。帰ってきたら外でキャッチボールしたい。



## 体験宿泊の中で自信をつけていく

体験宿泊ではまず、ゆっくりお茶を飲みながらみんなで夕食のメニューを決めます。そして、パンジーから歩いて15分位の所にあるスーパーのカナエまでみんなで食材を買いに行きます。現在体験宿泊をしているOさんは、電動車椅子でカナエまで行きますが、電動車椅子の運転にまだあまり自信がなくて、買い物に行くことだけでもひと仕事です。これから少しずつ電動車椅子を利用する機会を増やして、「うまくなる」と言っています。

そして、パンジーに帰ってみんなで食事作りです。Nさんは食事と一緒にビールを飲むのが楽しみで、毎回晩酌をします。また、家では早い目の入浴をしているKさんも、みんなに合わせて食事が終わってから入浴してもらっています。みんなそれぞれに家で生活とは違う、時間の流れや場所で過ごし、人間関係を経験しています。まずは体験宿泊の中で、家族以外の人に生活介護をしてもらうことに慣れ、そして自信をつけていきながら少しずつ自立へ向かっていけるといいなあと思います。

(大北)

厨房のカウンターから  
心のねたきり

毎週一回パンジーの職員は中新井先生より知的障害者について研修を受けています。その時々「困った」ケースに対して適切なアドバイスと具体的な指導をさせていただきます。日頃、メンバーと職員の関わりを厨房のカウンター越しに眺め、しばしば呆然としてしまう不勉強な私も、中新井先生の説得力ある説明に納得させられるばかりです。が、一方親の心情の部分で「ん？」が残ることも事実です。

先日、帰りの車中でその「ん？」を先生にぶつけてみました。曰く、「身体の障害でねたきりの人に対してはどんな手厚い介護を（例えば、若い看護婦さんが男性患者の下の世話など）することも世間は認めているが、知的障害者に対しては甘え、わがままととらえられ、周りの目はきびしい。心のねたきりとかいしゃくして下さい」。

親の（とくに母親の）役割の重大さを痛感させられました。 (河野)

ショップ「パンジー」  
お客さんがいないときの、ショップの一コマ



ショップの午後にちょっとした変化があり、林さんという男のマスターが現れました。今までコーヒーを入れたこともあまりなく、ましてお客さんに出すコーヒーを入れるのに、とても緊張していました。でも、メンバーに教えられながら1か月が経ち、マスターもずいぶん板についてきた様子です。

さて、お客さんのいないときのショップは、メンバーと腰掛けて2対1のいっぱいしゃべれる時間になります。メンバーは次々と話をぶつけてきます。そして、「パンジーで5人で泊まったのはきつかった」から「八戸の里へ飲みに行った」「カラオケ、300円で歌い放題のところがあるよ」など、自分の情報も出していきます。

「〇〇へ行けるかな？」「道があればいけるよ」。メンバー同志の話に笑いを誘われながら、なあんでもない、なあんにもしないゆったりした時間が過ぎていきます。外は、相変わらず車の往来が激しいのですが……。 (s・I)



## 素材あそびで世界を拓げる

中新井 滯子



障害をもつ人に対する国の施策は、教育でも授産でも、障害別程度別に分けられている。出来るだけ同じような能力を持った人が集まっている方が、指導する側にとって効率が良いからである。では、当事者にとってはどうなんだろうか。

自分と同じような障害をもった集団の方が落ちつく、安心できるという人もいれば、いろいろな人がいる方が活気があって楽しいという人もいるだろう。私は学校でも施設でも地域が基盤だと思うから、一定地域の中にはいろいろな人が居て当たり前と考えてはいるが、この当り前の状況を限られた場所と人で受けとめていくのは至難の技だということもよくよく知っている。パンジーはその難題をあえて引き受けて出発した施設だから、十数種類の仕事を用意してもまだ十分参加できない人が居ても不思議ではない。技術的な創意工夫には限界がある、心意気だけで長続きしない、人的物的環境整備などなど —— 作業に集中出来ない理由の三番目「作業内容が難しすぎる」施設にとって宿命的課題といえるかもしれない。

ささやかな試みを紹介したい。Bさんはいつも機嫌よく、お気に入りのひもをくるくる回している。ひもは目ざとく見つけて手に持つのに、他は手探りの感じで物によって口に入れたり、放り出したりで、見て触って確かめることが少ない。彼女の世界をもっと拓げるには、探索行動を豊富にして手と目の協応を確かなものにしたいと思った。それには「遊び」だ。パンジーには遊具はないが、素材はいっぱいある。ハンガーの部品（プラスチック）、ハンガー組立用の丸棒（木）、パン生地（小麦粉）、陶芸粘土、ティディベアの綿、さをり織り、乾燥したハーブ、庭の雑草や土などなど。広口のガラスビンに部品を出し入れしたり、丸棒で叩いて音を聞いたり、ビニール袋にちぎった紙を入れて風船にしたり結構楽しく遊べる。綿をちぎる、ミントやラベンダーを茎からもぎとるなどは作業の一部を分担することにもなり、メンバーからの激励がとぶ。粘土を口に入れなくなって陶芸の先生を驚かせたこともあった。ただし、今のところ、スタッフが一人ついていないと参加できないのが悩みのタネだ。



ガイドヘルパー物語 (第2話)

あなたへの手紙

石崎 邦彦

貴方は、いわゆる「重度知的障害者」で、字の読み書きも全くできず、殆ど言葉も話せません。養護学校を卒業した貴方には就職先もなく、貴方は作業所と家庭の閉ざされた世界しか知りません。

貴方とは、もう長い友人です。ガイドヘルパーとして、週末、貴方というろんな所へ遊びに行き、そして、貴方という人間を通して、多くを学びました。貴方も狭い社会に生きていたが、自分も、とても狭い社会に生きて

いたこと。人間はいろんな人間に出会い続けてこそ、初めて成長できること。同じ人間である前に、それぞれ全く違う人間であり、全く違うすばらしい一面を持っていること。人間だれしも限りなく優しいのだけどその優しさを表現するのにとても勇気があること。自分の気持ちを伝えるのが本当に大変なこと。



こんな当たり前なことを、言葉も不自由な貴方が、ただ、ひたむきに教えてくれました。この手紙を貴方は読むことは出来ません。でも、この気持ちは貴方に伝えたい、貴方に出会えて本当に良かったと。

えっ、貴方との一番の思い出(?)。それは、夕暮れ時の帰り路、殆どしゃべれない貴方が、はじめて、あの一言を呟いたその日かな。

そう、片言に、呟いた一言は「イ・シ・ザ・キ・さん」。

(前号の「ガイドヘルパー物語」に書いていただいた、石崎さんの会社の社内報で、掲載された文章を転載しました)

**書き損じハガキ、切手(未使用)を待っています!**

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてたいと思っています。ご協力をお願いします。

**ご協力ありがとうございます**

◀後援費を振り込んでいただいた方▶ (敬称を略させていただきます)

久保田卓 田中 誠 石毛鉄子 大槻小浪 橋本明子 飯田芳春  
岩佐フミ子 大倉振興株式会社

◀カンパ 寄付をいただいた方▶

中 浩二 松崎いくみ 清水富佐代 北川洋子 前田公子  
青山純代 高橋 亘

◀書き損じハガキをお送りいただいた方▶

久保祐子 平石満彦 木村多加緒 太田かよ子 岩佐フミ子 山中登志未  
甲田浩子 柏田勝幸 酒井待子 西田美智子 下農美智子 大谷 強  
永井広子 豊島浩子 山中孝郎 天野能行 藤原将昇 梅原義教

◀外へ飛び出すためのカンパをいただいた方▶

久保田卓 岸本啓子

▲ 「パンジーまつり」をします。バザー用品大募集!  
くわしくは、折り込みチラシをごらんください。

▲ パンジーのメンバーが講演に行きます!  
興味のある方はパンジーまでおたずねください。

▲ メンバーが全国へ飛び出すためにカンパをお願いします。  
全国の知的障害者が集う会議が各地で行われています。  
その会議では、自分たちのこと、将来のこと、自立についてなどを話し合います。  
現在、旅費、宿泊費はメンバーの個人負担。  
少しでもメンバーの負担を軽くするために、カンパをお願いします。

パンジーでは後援会員を募集しています。

賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号	00950-1-300551		

クリエイティブハウス「パンジー」

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8  
クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818  
"パンジー" FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会  
大阪市城東区東中浜2-10-1-3  
緑橋グリーンハウス1F・7F企画気付